

## 2015 火 1,2 農業工学第 3 回目レポート 国際開発コンサルタント

国際開発コンサルタントの役割を記述するにあたって、“国際開発”と“コンサルタント(コンサルティング)”の 2 つの要素の意味を考えてみたい。まず、コンサルティングとは、企業や行政、公共機関などのクライアントに対して、専門家の立場から客観的に現状を分析して問題点やその原因を示し、解決案の提示や場合によってはその実行によってクライアントの発展を助ける業務を行うことである。次に、国際開発とは、海外における都市開発や鉄道、道路、空港などのインフラ施設の整備、環境、教育、保健医療、産業振興、エネルギー、貧困削減などの解決を通して、国家間の経済格差、発展途上国の貧困を解消することを目的とした事業のことである。以上より、国際開発コンサルタントの役割とは、海外の人々の暮らしや環境をより良いものにするための事業の計画、実行を効率よく円滑に進める助けをすることといえよう。

岩本さんのお話の中で最も印象に残ったキーワードは、“聞く力”であった。国際開発事業においては、クライアントだけでなく、開発を受ける現地の人びとやその環境も大きく関わってくる。現地の人びとと事業について共通の認識、賛同を持たなければ、事業を進めることはできないであろう。また、環境についても、開発側の方が科学的アプローチという点では優れているものの、それだけではカバーしきれない部分も多く、現地の人びとの助言が必要になる。そして、何より大事なものは、完成した施設や移転された技術を使用したりするなどして直接開発の影響を受けるのは現地の人びとであるため、開発事業を行う際には現地の人びとの声に耳を傾けることが最も重要だと考える。

また、言語も背景も違う人たちと理解を共有しあうのは難しく、そのためにはどうしても語学ばかりを重視しがちであるが、それだけが大事ではないこともとても勉強になった。岩本さんは現地の人たちとハグをするとおっしゃっていたが、確かにたどたどしい言葉だけを一方的に話すよりも、しぐさや行動で相手に対する信頼や好意を示す方が確実に互いに歩みよることができるだろう。普段の生活の中では、現地に行くことがあまりない分どうしても語学に偏りがちであり、細かい事業計画をつめたりするためには不可欠だが、言葉はあくまでもひとつの道具にすぎず、理解し合おうという気持ち、それを表現する行動が大切だと思った。

### 参考文献

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%AB%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%82%B0#.E9.96.8B.E7.99.BA.E3.82.B3.E3.83.B3.E3.82.B5.E3.83.AB.E3.83.86.E3.82.A3.E3.83.B3.E3.82.B0>

<https://kotobank.jp/word/%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%AB%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%82%B0-506099#E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89>